

# いわて便り

No.3

2016年8月10日発行

8月号

日本生協連  
組合員活動部

ふれあいサロンでは、復興が徐々に進み、仮設住宅からの転居が増え参加者が減ってきているサロンがある一方、仮設住宅の集約で新たな参加者をお迎えした会場や、転居先から参加される方がいる会場と様々な立場の方が参加されています。



**ふれあいサロン 毎月60回開催しています。**

ふれあいサロンに参加されている方は、仮設での引越し作業や草取りなど忙しくしていますが、サロンの時間になると会場に集まってきてくれます。ボランティア参加者も雨が降ったり、暑かったりと体調管理が大変ですが、元気にボランティア活動に参加しています。

<陸前高田市：サンビレッジ仮設>



踊ってリフレッシュ！

<陸前高田市：矢作仮設>



キット作りに夢中です♪

<宮古市：二中仮設>



白玉あんみつ作り！  
おいしくな～れ！

<大槌町：小鎗第8仮設>



みんなでおしゃべり♪

<大槌町：安渡仮設>



かわいい箱のできあがり！  
お菓子もおいしくいただきました。



## ふれあいサロンボランティア研修会を開催

新しい環境へ入る住民、残される住民、住民の心身の変化にどう対応していくか、慶応義塾大学臨床心理士の矢永由里子さんを講師にサロンボランティア研修会を県内 7ヶ所で開催し、80人が参加しました。以下は参加者の感想です。

- 「人には人が必要、人と人とのつながりが何より」と改めて勉強になりました。
- 「みんなと同じ思いで 5 年サロンを続けていたのが分かった。あまり気張らずこれからも続けていけたらと感じました。協力してくれている皆さんにも感謝。」
- 「ボランティアさんが少なくなっていてこのまま続けていけるか不安です。」



## 親子でバスボランティア

7月30日は158回目となるバスボランティアでした。夏休みに子どもたちにも被災地の現状を知ってもらおうと、親子での参加も呼びかけました。小学生を含む21名が陸前高田市の再生の里ヤルキタウンで花壇の草取りなどをしました。午後からは陸前高田市の震災遺構の見学や盛土が進む市内の様子を学習して帰りました。以下は参加した小学生の感想です。

- 「つなみがおそった建物の中に松の木があって本当にびっくりしました」
- 「初めて被災地に来ました。少しでも高いところへ避難することが大事だとわかりました。」



## サロンボランティアの声

「ふれあいサロン」は組合員ボランティアが仮設住宅集会所などに伺って開催しています。内陸地域からは、2時間以上かけてバスで被災地に通っています。そんな活動をされているボランティアさんたちの声を紹介します。

4名の参加がありました。参加人数が少なくなっていることは、新しい生活の場が出来たということでしょうか。今までのみんなの笑顔が見られないのは寂しいことだなと感じるのも本音です。  
(大槌町小槌第20生井沢仮設)

思い出話に笑いの花が咲き、震災時の話や高台移転での引越しの話、みなさんの今後の話など次々に出てきました。自治会長さんも「みんな生協さんの訪問を待ってるからよろしく！」と。みなさんの笑顔が明るく安堵しました。(陸前高田市佐野仮設)

美しい音色を堪能し、心に深く刻まれたようです。体を揺らして、頷きながら、目を瞑って、目頭を抑えて、笑顔で  
…皆さんの心と体に音楽が届き、潤されていくのが分かりました。遠く富山県から何度も足を運んでくださった、滝沢卓さんに感謝申し上げます。  
(陸前高田市片地気仮設)



小槌第6・14でのシンセサイザー演奏風景。大槌や陸前高田などで演奏会を開きました。

発行

日本生協連 組織推進本部 組合員活動部  
電話 03-5778-8124 Fax 03-5778-8125

担当

小池、住吉